

平成 21 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2006～2009  
課題番号：18520131  
研究課題名（和文） 古事記・日本書紀の文字表現と成立の研究

研究課題名（英文） The study of expression of KOJIKI and NIHONSHOKI

## 研究代表者

瀬間 正之（SEMA MASAYUKI）  
上智大学・文学部・教授  
研究者番号：00187866

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学・国語学・中国文学・東洋史・古事記・日本書紀・木簡

## 1. 研究計画の概要

本研究の主眼は『古事記』『日本書紀』の文字表現成立の経緯を明らかにすることにある。すなわち、『日本書紀』区分論の成果、また我が国の金石文・木簡はもちろん、古代朝鮮半島の金石文と、新出の韓国古代木簡の文字表現の分析を踏まえた上で、『古事記』『日本書紀』の文字表現が、具体的に何に依拠したのか、何に学んだのかを明らかにし、それが、文字表現として、如何に成立したのかを解明することが目的である。具体的には以下の通りである。

(1)古代朝鮮半島文字資料の収集と整理

(2)記紀の文字表現の背景としての漢籍教養と出典研究

(3)古事記・日本書紀の語法・文体の研究

(4)記紀の成立の研究

## 2. 研究の進捗状況

上記研究計画の概要の(1)～(4)に対応させて述べれば、以下の通りである。

(1) 国内の文簡については、2006年～2008年木簡学会に出席し、報告を受けるとともに、その年に出土した木簡の実見調査を行った。韓国については金石文・木簡のデータベース構築に向けて入力的基础作業を行うとともに、可能な限り実見調査し確認した。扶余出土の新出木簡（百済木簡）について、扶余国立博物館の学芸員の解説を受け、釈文を作成した。金石文に関しては、吏読の見られる慶州瑞鳳塚銀合杆銘について、韓国の専門家と討議した上で、釈文を作成した。また、折し

も城山山城木簡データベースが2006年12月より公開され、実物写真・赤外線写真を拡大縮小して見る事が可能になり、多大な恩恵を受けた。

(2) 2006年『書紀集解』引用漢籍一覧稿をひとまず完成させ、『書紀集解』引書仏典索引の完成に向けて入力を継続中である。さらに、記紀歌謡の背景にある漢籍教養について調査し発表した。

(3) 古事記・日本書紀の成立に深く関係する「スメラミコト」という呼称の成立と「清明心」の問題と三角縁神獣鏡をはじめとする古鏡銘文との関係を中心に調査し研究をまとめた。

また、大阪大学懐徳堂所蔵の『刪正日本書紀』の調査『刪正日本書紀』は、寛文版『日本書紀』に五井蘭洲の手になる添削が施されたものであり、『日本書紀』の文章表現の研究に欠かせない資料である。この調査のために、大阪大学附属図書館にマイクロ資料の印画を依頼したが、白黒写真であるために、肝腎の五井蘭洲の手になる朱書きが判読不能であった。大阪大学附属図書館に赴き、全巻デジタルカラー写真を撮影するとともに、不鮮明箇所の実見を行い、資料としての使用に耐えうるべく整理した。

(4) 古事記の成立について序文を再確認し、序文が何故「進五経正義表」に依拠したのかという問題について、「進五経正義表」が依拠した「毛詩序」に見られる周南召南が正始之道であり、王化之基であるという言説が、古事記の歌謡を重視して成立したことに直

結するものであったことを検証し、発表した。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

上記進捗状況の通り、計画に基づいて順調に進展し、成果の発表も行っている。

### 4. 今後の研究の推進方策

記紀の文字表現の成立と万葉集の交渉について、本年 10 月万葉学会全国大会で発表する予定であり、それに向けて準備を進めるとともに、研究最終年として以下の項目について調査研究をまとめる。

(1) 『日本書紀』巻十四「雄略紀」の本文データベースの作成

本文を app ファイルに加工する。app ファイルの体裁は、[書名, 巻数, 頁段行, 前の行から受けた漢字数, 行データ, 後の行に送る漢字数] であり、今日漢字文献検索用ファイルの標準的形式になっている。SAT (大藏経テキストデータベース研究会) からダウンロードできる『大正新脩大藏経テキストデータベース』も app ファイルであり、仏典との比較を効率的に遂行できる。

(2) 河村秀根『書紀集解』引用書索引 (仏典篇) データベースの作成

『日本書紀』と仏典との関係を明らかにするために、出典研究の宝庫である河村秀根『書紀集解』が引用した仏典の一覧表を作成する。

(3) 『古事記』『日本書紀』雄略天皇条がどのように述作されたかを対照研究する。

具体的には、漢籍・仏典をどのように利用し、文章を製作したかという問題と、朝鮮半島関係記事の基になる百済系資料の利用の問題について研究する。この成果は本年 10 月の万葉学会全国大会で報告する予定である。

(4) 五井蘭洲の『日本書紀』関係の注釈書についての研究

既に撮影済みの大阪中之島図書館蔵『日本書紀神代卷講義』『神代卷口訣紀聞』、大阪大学懐徳堂文庫蔵『刪正日本書紀』について、研究を継続する

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

①瀬間正之、記紀歌謡と漢籍教養 一古事記に於ける歌謡詞章の更新一、上代文学、97、45 頁～59 頁、2006 年、査読有

②瀬間正之、清明心の成立とスメラミコト一鏡と鏡銘を中心に一、高岡市万葉歴史館紀要、18、1 頁～14 頁、2008 年、査読無

③瀬間正之、所謂「推古朝遺文」について、アリーナ 2008、5、231 頁～235 頁、2008 年、査読無

[学会発表] (計 1 件)

①瀬間正之、記紀歌謡と漢籍教養一歌謡詞章の更新と読み換え一、上代文学会、2006 年 5 月 21 日、高岡市生涯学習センター

[図書] (計 1 件)

①菅野雅雄博士喜寿記念『記紀風土記論究』刊行会、おうふう、菅野雅雄博士喜寿記念『記紀・風土記論究』、2009 年、総頁 688 (記序は何故「進五経正義表」に依拠したのか (分担執筆) 24 頁～38 頁

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]